

第 12 回京都山城便教会

平成 29 年 8 月 26 日 (土)

第 12 回京都山城便教会は、八幡市立男山第二中学校で実施しました。参加者は 5 名。初参加の方 1 名、2 回目の方 1 名ということで、開講式では DVD「掃除の道」の冒頭部分を全員で見ました。鍵山秀三郎相談役が掃除を始められた「社員の荒み、社会の荒みをなくしたい」という思いをしっかりと受け止め、今回のテーマを「なぜ、掃除をするのか」とさせていただきます。

参加者の皆様にこのテーマを投げかけ、最初にペアで話し合っていました。

- ・自分と向き合うため
- ・環境がきれいになると気持ちがいいから
- ・生徒のためにと思っていたけれども、自己満足かもしれない

このような会話が聞こえてきました。なんとなくやっている掃除ですが、「何のためにやっているのか」と問われると意外に答えられません。今回は原点に帰って、「なぜ掃除をするのか」を心に抱いていただきながらトイレ掃除をスタートしました。



今回のトイレは外用のトイレ。一見きれいに見えましたが、尿こしをとると、中には尿石が大量にこびりついていました。この学校の先生に聞くと、外のトイレは、各クラブで順番に掃除をしているけれども、尿こしをとって掃除したことはないと言っていました。今回はじめてトイレ掃除に参加された先生は、引き気味でしたが、道具の説明を行った後、覚悟を決めて取り組みました。

しかし、やっていくうちにのめり込んでいかれ、気が付けば、頭が便器の中にすっぽり。トイレと向き合われるうちに、最初にあった抵抗はなくなり、少しでもきれいにしたい一心で取り組んでおられました。



大便器は、水垢の汚れがきつかったですが、こちらもていねいに磨いていけば、どんどんと汚れが落ちていきました。手間暇かければ、必ずきれいになる。すぐに結果を求めようとする今の時代だからこそ、大切な気付きをいただくことができました。

<Before>



<After>



トイレ掃除終了後は、おにぎりとお味噌汁をいただきながらの交流会。参加者は晴れやかな顔をされながら次のような感想を述べられました。

- ・「なぜ掃除をするのか」という問いに対して、使う人が気持ちよく使って欲しいからだと思った。汚いトイレときれいなトイレなら、きれいなトイレの方が嬉しい。使う人に喜んでもらいたい。また、掃除をやりながら、色々な方法でやるのが大事だと感じた。尿石に対して上からやっても取れなければ横からやり、改めて上からやると取れたりする。正解があるわけではなく、色々なやり方を考えることが大事だと感じた。
- ・トイレを見て、まず尿石に取りかかろうと思った。日頃を振り返ると、まず真っ先に手のかかる生徒からかかわろうとする。しかし、「その子ばかり」になってまわりが見えないことがある。今回トイレ掃除をするときも、まず一番汚れているところからやろうとする自分がいることに驚いた。その習性と全体を見る大切さを改めて感じた。
- ・初めてのトイレ掃除であったが、最初はあまりの汚れに後悔の念が生まれたが、やっていくうちにのめり込んでいった。尿石は一気に取れることはなく、色々なやり方を試みながら、コツコツやるしかないと感じた。このことは児童に対しての姿勢と同じではないかと感じた。
- ・外で尿こしを洗っていると、トイレの中から気が流れてくるのが分かった。だから外にいても孤独を感じることもなく、温かい気持ちでトイレ掃除ができた。尿石がみっちりとかびりついた尿こしに手こずったが、水にひたしておくで、取れやすくなった。教育現場ですぐに結果を出そうとするが、必要に応じて間をあけることも重要だと感じた。

第12回を終えて思うのは、実践の大切さ。「掃除の意味」を頭で考え、聞こえの良い言葉で表現することはできますが、所詮頭での話。実際に体を使い、そこで感じた気付きは、頭で考えている状態では生まれてきません。やったからこそ分かる感覚がある。やった者にしか出せない雰囲気がある。だから

「何を言うかではなく誰が言うか」。だからこそ、今回のトイレ掃除で終わるのではなく、明日からの継続を誓って、第12回京都山城便教会を終えました。
(小笹大道)

